



出展：公益財団法人アイヌ民族文化財団

アイヌの人々の歴史

古くから北海道を中心に暮らしていたアイヌの人々。
北海道の歴史と重ね、歩みをたどってみましょう。

本州と異なる時代区分。
続縄文、擦文時代を経て
生まれた独自文化

北海道の時代区分は、本州以南と異なります。大陸から稲作が伝わり、本州が弥生時代を迎え、古墳時代、奈良時代…と続くころ、北海道ではそれまでと同様に漁や狩猟、採集を中心とする暮らしが続ききました。続縄文時代、擦文時代とよばれる時代です。交易を行うようになり本州の影響を受けた「擦文文化」と、北方から来た人々に由来する「オホーツク文化」の影響を受けながら、12～13世紀ころにかけ、アイヌ文化の時代に移行したと考えられています。

和人との衝突が続いた
中世～近世
「シャクシャインの戦い」

15世紀ごろになると、和人が交易のため北海道に頻りに訪れるようになり、アイヌの人々との間で衝突が増えました。江戸時代には、松前藩が蝦夷地における交易を独占。アイヌの人々は、藩と和人商人から不利な条件での交易を押し付けられたり、漁場での労働を強いられるなど、厳しい扱いを受けるようになりました。1669年、アイヌの人々は松前藩との全面戦争「シャクシャインの戦い」で敗北。和人による支配がより強まることになりました。

アイヌ文化の否定。
苦難を超えて伝承と
新たな発展へ進む現代

明治になり、政府は蝦夷地を「北海道」と改称。新設された開拓使は、アイヌの人々の言葉や伝統儀礼、風習などを否定し、和人への同化政策を進めました。文化伝承の困難、偏見や差別、貧困など、アイヌの人々は苦難の道を歩むことになりました。それでも逆境に屈せず自らの文化の伝承や保存に尽力した先人たちのおかげで、文化は今日に伝えられています。さらに近年は、古い記録から伝統の踊りを復活させようとする取り組みや、新しいアイヌ音楽を創造する動きもあります。